

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 人文・社会（英語）

氏 名 渡邊 政寿

研究期間 令和5年度～令和6年度

研究プロジェクトの名称	初等教員養成課程の学生の小学校英語指導に対する教師効力感の育成 —英語指導に対する不安を軽減するためのコア・カリキュラム に基づく小学校英語指導法の改善を目指して—
研究プロジェクトの概要	本研究プロジェクトの目的は、本学学生の小学校英語教育に対する意識（自己効力感）がどのように変化するかを明らかにし、必修科目である「小学校英語指導法」の内容改善への具体的な示唆を得ることである。具体的には、「小学校英語指導法」の授業を受講した学生の振り返り等を量的ならびに質的に収集・分析し、その結果を授業に反映させることで、小学校英語教育に対して抱える自身の指導力ならびに英語力への不安を最大限に軽減した状態で学生を学校現場に送り出すことである。
研究成果の概要	2023年度「小学校英語指導法」を受講した学生に対して実施した質的調査から、小学校英語指導に対して持つ不安は、①英語運用能力と知識から成る「自らの英語力」、②道具的・物理的指導方法および教師自身に内包された指導力で構成される「指導力」、③自身の小学校時代との差異である「未知の事柄」に大別された。授業を通して解消された不安もあったが、英語運用能力、ICTの活用、評価の仕方に対する不安が今後の課題として残った。2021年度、2023年度、2024年度の3か年の量的データの比較から授業開始前の調査における不安は大幅に減少していることがわかった。これはインターネット等から学生が小学校英語指導に関する情報を事前に入手できるようになったことが原因と考えられる。現職教員になっても、英語運用能力に対する不安は存在しており、学生のうちにできる限り英語力を高めることが望まれることが明らかとなった。
研究成果の発表状況 （※今後の予定も含む。）	令和5年10月 渡邊政寿・大場浩正「初等教育教員養成課程の大学生の小学校英語指導に対する教師効力感の育成—英語指導に対する不安を軽減するために—」日本教科教育学会第49回全国大会、口頭発表、弘前大学 令和6年12月 Watanabe, M. & Ohba, H. A Three-Year Study on Anxiety Related to Teaching English Among Pre-Service Elementary School Teachers in Japan. The Tenth CLS (The Center for Language Studies, the National University of Singapore) International Conference, Oral presentation, National University of Singapore.
学校現場や授業への研究成果の還元について	本学学生が抱く小学校英語指導に対する不安の一端を明らかにすることができた。この結果をもとに「小学校英語指導法」の授業改善を図り、可能な限り学生の不安を軽減し、教師効力感を有した学生を送り出すことが学校現場への還元になると考える。